

中川根ふる里通信

= 第47号 =

編集・発行・モアラブ中川根
 連絡先 〒428-0313
 静岡県榛原郡中川根町上香尾 859-6
 中川根ふる里通信係
 TEL 0547-56-0015
 郵便振替口座 00870-4-81556

新年明けまして

おめでとうございいます

一年の計は元旦にありと申しますね

こころはどの様な年になるでしょうか

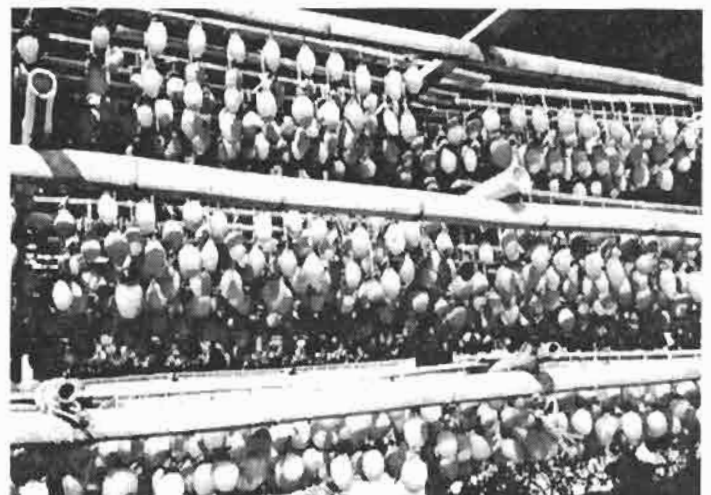
ふる里通信も皆様のおかげでこころは五十号を

発行できると思っています どうぞよろしくお願ひします



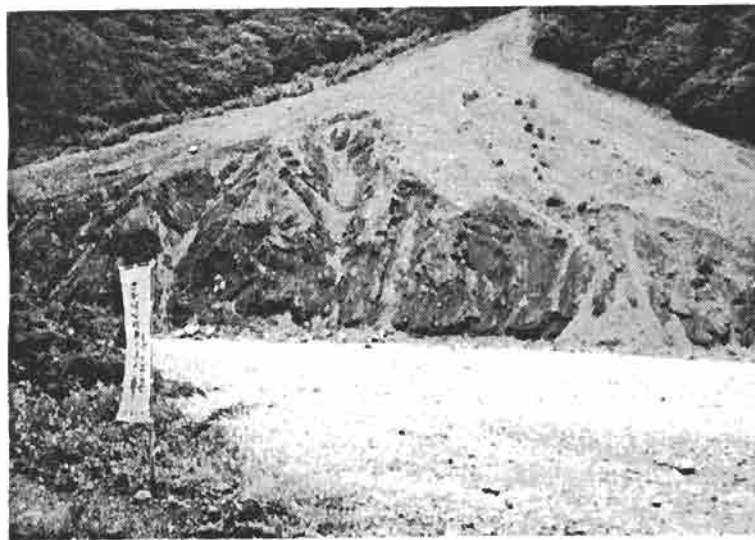
昨年は果物大豊作

1 昨年のカメ虫被害の分もカバーしてか、特に柿の実の鈴生りが秋の風情を醸し出してくれました。秋の味覚は鳥や動物達も充分に味わうことが出来たようです。





畑 薙 第一ダム上流の大井川の堆積土砂



崩壊地 赤崩れ の土砂は大井川の河床の高さをはけない



赤石渡 大井川と赤石沢の合流点
赤石ダム下地点より貯水の為水無し
川となった赤石沢を見る。

もう十二年も前になりますか。モア、ラブ川根の研修会で大井川源流を見よう、と二軒小屋、田代ダム等を訪れた時には、未だ赤石ダムは着工されていなくて、赤石渡から堰島まで赤石沢を廻る道があり、清流のせせらぎが聞こえる谷間に道がありました。

それから五年後に訪れた時には、百メートルも高い所にトンネルが見えて、「やがてあそこが道路になる」との説明があり、あちろちろでダムの建設が始まっています。そして、昨年六月訪れた時には、赤石ダムは完成され、堰島方面への道路も新たに建設されており、以前の赤石沢の面影はどこにもありませんでした。

昨年六月二十二日、久しぶりに源流探訪の機会がありました。空梅雨と思いきや、季節外れの台風上陸で、大井川は

濁流が流れて、通常時の大井川と異なっておりましたが、井川ダムも畑薙ダムもほっと一息でしようか、材木混じりのミルクコーヒー色の水を溜めはじめておりよかったです。

南アルプスは、山の一生で言うところ、壮年期の比較的早い時期（早壮年期）と言われていると、これからも造山運動は続けられ、成長していく反面、山肌は削り取られ、大量の土砂が流れ、谷を埋め、雨や雪が土砂を下流に流す一方、谷を浸食して、川の上流部は深いV字谷となっていくと。

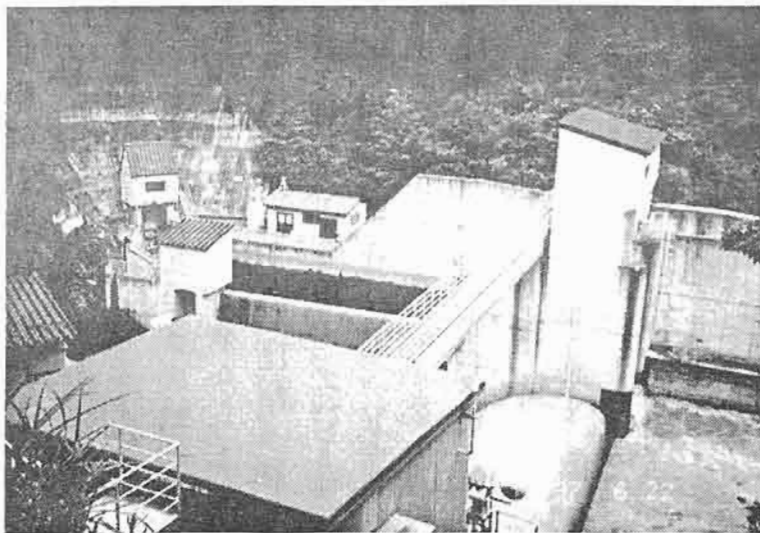
一般に言う川の三大作用・上流部「浸食作用」、中流部「運搬作用」、下流部「堆積作用」そして、海にたえず注ぎ陸棚をつくり、砂浜に砂を供給し、山からの栄養を運び豊かな海をつくります。



赤石沢に建設された赤石ダム



赤石ダム貯水を始める。6月22日撮影。6月20日台風時
 においても、聖沢の水も、赤石沢の水も濁ってはいなかった。
 山深い原生林の得水能カヒ。山林が保全されている
 ことが判りました。(右下奥が聖沢、出会い)



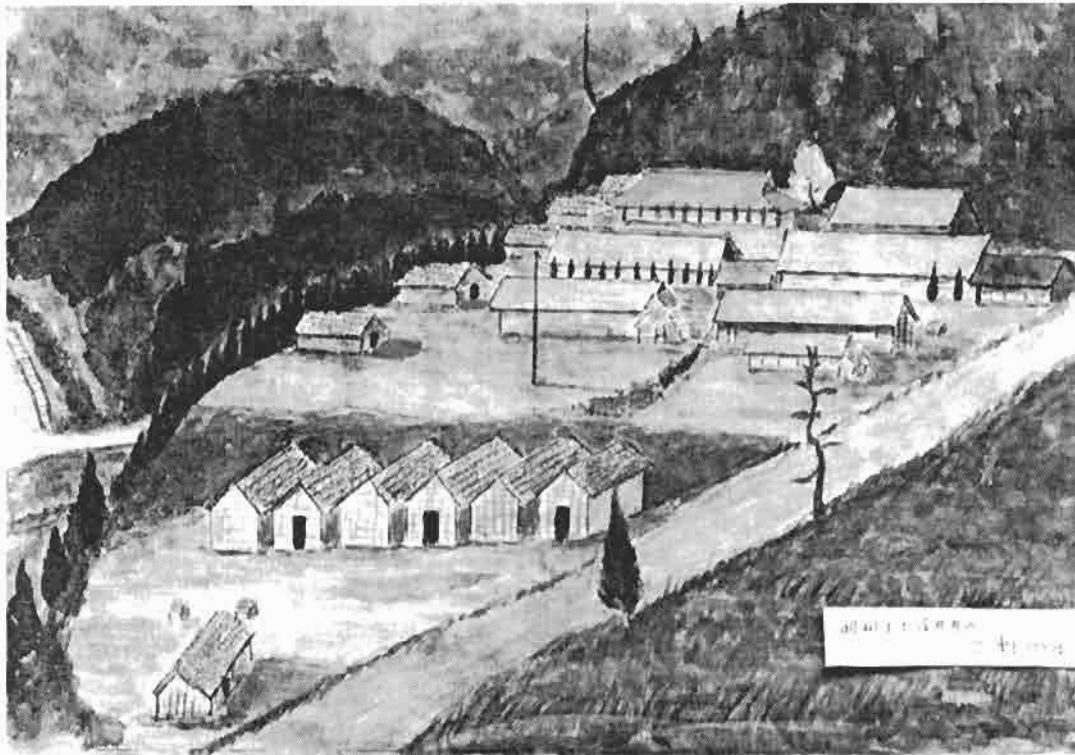
木賊堰堤取水口

本来下流が海へ届くはずの土砂。山からの贈りもの
 が、人家がある中流域・上流域。人目の届く地域以外
 の人里離れた最上流域に大量に推積しているのです。
 そこには切り立ったV字谷は全て埋めつくされ、下流
 域に見られる山石、砂利、砂のみが川原をつくり、
 「今、どこにいるのか？」と思わせる大井川の姿がそ
 こにはありません。山岳谷特有の大岩、大石はどこ
 を見渡してもありません。はるか数十メートル地下に埋
 まっているのでしょうか？

水を塞^{せき}めるダムや堰堤は、水だけではなく、土砂も
 塞^{せき}めてしまっています。塞^{せき}める効果はダムのバックウ
 ーターの付近から始まるそうです。洪水時、ダムゲ

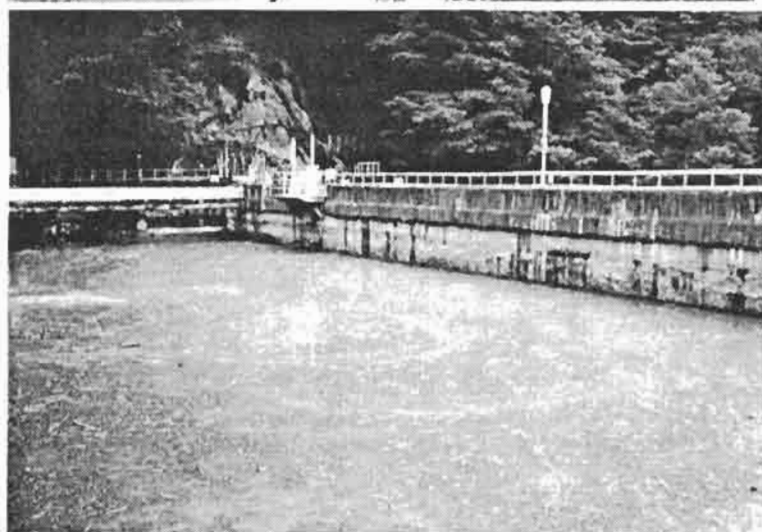
トを全開しても、水位の上がったバックウォーターが、ゲ
 トより何キロ上流にあるのか、濁流がすし^しの殿^{だん}みて、
 どれほど土砂を推積するのか？ わずか数年、数十年で
 この有様ですから、自然の威力のすさまじさを改めて
 感じないわけにはいきません。

本来、駿河湾の陸棚を形成し、志太榛原の海岸砂浜を
 つくって来た大井川の土砂は、数え切れないほどのダム
 や堰堤の上に堆積されたままになっていきます。海岸線の
 やせ細りに投じた金額は？ 駿河湾を震源とした東海地
 震の津波の高さは？ 最上流域の堆積土砂そのものかも
 たらす将来の影響は？ 文政十一年子^こ年の大洪水で、少
 さな支流(水川^{みづがわ})の鉄砲水で、大井川の川幅は倍に広がったとか。



昭和17年の二軒小屋。瀬沢。原田耕作さんのスケッチを写真とする。

畑薙から、中の宿、樫島、木賊、二軒小屋と、奥山の木材が切り出され、大井川の流れに乗って下流へと運ぶ基地だった。最上流の地が、大変貌をとげました。江戸時代から人が入り、木材産業に貢献してきた南アルプスの山々は、現在ほとんど伐採されていないようで



上写真左はじの滝は、千枚岳から激生を、もとの川すじに田代ダムを作り、その東側の尾根が半島状にのび、大井川、大井川から毎秒五トンの水を取っています。蛇行させています。その蛇行を、ま、写真中は、滝の現状、下は、田代ダムの蛇行中の落差は十数メートル。

す。しかし、山は、自然にまかせておくと、以外と早く荒廃していくようです。今は保全を中心に、山の管理をしていることを伺いました。畑薙、樫島は南アルプスの登山基地です。二千メートル登れば別世界、三千メートルに近づけば、神様に近づいたことになるでしょう。今年の夏は南アルプスへ行ってみませんか。途中母なる川大井川に注目しながら。

木津文彦さん逝く



十一月下旬、静岡新聞に訃報が載せられていました。『肺気腫の為死去、享年六十九歳』すっかり驚いてしまいました。木津さんから数日前お便りが届いておりました。文面から、ご病気を察することも出来ず、残念に思う次第です。

木津さんは、高郷出身で、音楽に天分を発揮され、東京芸大音楽科出身、静岡大学教育学部教授となられ、音楽教育に心血を注がれる一方、各方面の音楽指導、作曲面にも手掛けられ、町内の小、中学校の校歌をはじめ、校歌や合唱曲、県内に昔から歌い継がれて来た民謡・唄・など合唱曲や組曲に作曲され、多くの人々に歌い継がれるすばらしい曲を作って下さいました。

浜松市にお住まいで、大学退職後は、音楽の都・浜松にふさわしい音楽国際交流関係の責任者など、幅広い活躍をされておりました。

木津さんのお父さんは、京都木津川の出身で、芸術家の家系と言われています。木津さんは音楽、息子の文哉さんは美術と、先祖の流れを立派に継いでおられます。『木津文哉の世界』展、平野美術館等、所のご案内もいただき、個展開催中の突然のお別れになってしまいました。大井川水上遠く川根茶の誉れ名高い中川根、郷土の誉れ、木津さんの残してくれた、歌の数々と、文化の足跡は、永遠に歌い継がれて行く、ことでしょう。ご冥福をお祈り申し上げます。

平成三年 中川根町へ寄せた木津さんのメッセージをお贈りします。

産業と文化の調和ある豊かな町へ

私は昭和二十八年に大学を卒業して以来、静岡大学教育学部に勤務し教育の仕事に携わって来ました。県内に住みながら中川根に帰る機会があまりありませんが、それでも年に二、三回は帰省し、町の躍進ぶりに町当局、町民の皆様のご努力に感謝してまいりました。

いつになっても育ててくれたふるさとには、暖かさがありますし、ゆとりをもつ心を与えてくれます。ふるさとも時代の流れに呼応して、これからも大きく変革してゆくでしょう。またそうでなければ町の発展も望まれないでしょう。町のノスタルジアは友がいます。山や川や美しい空気があります。昔のままというノスタルジアにとらわれないで、現代に生きる町民のために魅力ある町づくりを進めて欲しいと願っています。

私たちの町は、働き、学び、憩い、遊ぶ場として、古代縄文社会からの長い歴史から創意と英智を結集して築き、上げられて来たと思います。こうして深い伝統ある町であることを誇りとして、「産業と文化の調和ある豊かな町づくり」を基本理念として、中川根町のアイデンティティを生かした町づくりを確立して欲しいと思います。

町の活性化については次のような施策の展開が望まれることは申すまでもありません。(一)個性のある町づくり。(二)住みよい生活環境づくり。(三)豊かな人づくり。(四)健康づくり。(五)地域産業づくり。この中でも、私が最近積極的に取り組んでいる「豊かな人づくり」に関心がもたれ

大井川の今昔物語

地名 藤田 正義

平成九年も正に暮れようとしている。今更に歳月の流れの早さを恨んで我身の老をなげく事一汐の昨今です。歩んで来た人生を振り返れば、いつの間にか自分も語り部の一人になってしまったようである。

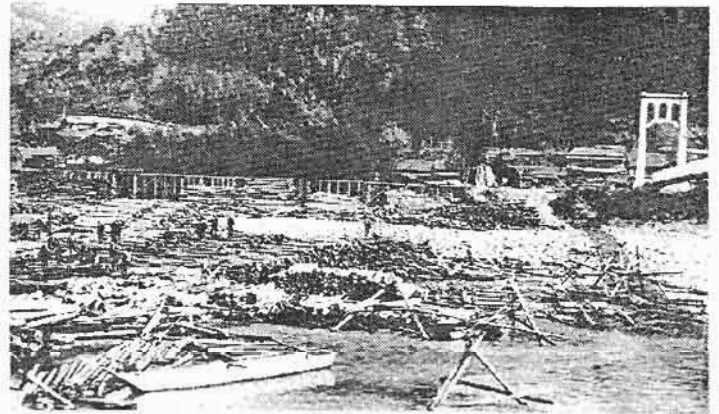
思いつくまま故郷の大井川について記憶をたどってみる事にした。

ここには遠く縄文の時代から川を命の母と頼み、或は度重なる洪水と戦い、田畑を拓き、ここも生活の場として、遠い祖先より連綿として続く今日までの歴史があった。

昭和の初期まで大井川はのどかな白帆の高瀬舟が上り下り、四季を問わず飛沫を浴びて下る筏師の姿、更には晩秋から春先にかけての、時として川一面に埋まる程の材木のバラ狩等が見られたものでした。

このバラ狩には多くの人手を要し、この人達は「ひょう」と呼ばれ、これは庄屋、小頭等の階級により統率されていた。川狩には各集落毎に定宿が数軒あって各十人前後泊っていたので、其の時期宿泊地は一時的ではあったが活気もあった。「ひょう」は皆腰皮を着けていたが、これは羚羊だったような気がするが或は兎だったかも知れない。

バラ狩材は先頭を木鼻と言ひ、最後尾を木尻と言ひ、よく「木鼻は今どこだ」となると大人達の話題になったものでした。



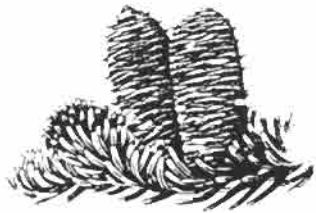
昭和10年ごろの千頭側から見た小長井と川根大橋(本川根町)。大井川上流の材木は川狩りによって、千頭まで搬出され、筏に組まれたり、あるいはバラ狩りにより、島田まで、大井川の流れて下っていった。昭和6年、大井川鉄道全線開通により、一部、鉄道を利用したか、昭和30年代、井川ダムが出来るまで、川狩り、筏流しは続けられた。千頭駅を拠点に、寸又川、大井川に森林軌道が敷設され、輸送の主流は川狩りから鉄道に移り、昭和40年代、大規模林道網がつけられ、軌道、鉄道の時代も終了した。「山の幸を川が運び、平野や海へ届ける」よき時代は、つい近年まで続けられたのです。



バラ材の持主は①又は②等と呼ばれていた区分だった。この時期は湯水期に当たっていたが、大井川の流量は最低でも毎秒二十五トン位はあったようである。当時上流部二軒小屋で毎秒五トン位の水が富士川水系に分水していた以外には太古そのまの姿を止めていた。

ようやく電源開発の気運が高まり、富士電力、大井川電力等の会社が寸又川、大井川で発電所の建設を始めようとしていた。これ等の会社は後に日本発送電、更には中部電力と継承されていった。

昭和十年代に入り完成した発電所は現在のそれらに比してダムの規模も小さかったので流量に若干の人為的変動はあったが、川としての機能を失うような変化はきたさなかつた。



いびその実

今日、自然、懐古の声が強いのですが、これは極論すれば、原始の昔に戻る事になり、現実的でないのは自明の理です。自然を生かしながらの開発、調和の取れた進化こそが今一番望まれるのではないでしようか。間もなく大井川に

戦中から戦後の初期にかけて、これ等の発電所はエネルギー資源の乏しい日本のホープとして、国の経済復興に大いに寄与したものとと思う。

再び戦後十数年を経て大井川の大规模な電源開発の計画が立案され実行された。

この時期、たしか昭和二十九年だったと思いますが、当時農協職員だった松下麟一さん(下泉)が、「ダムが出来川の流れを失えば川根特有の川霧の発生がなくなり、川根茶の品質低下が心配だ」と新聞に投書されたのを拝見した記憶があり、これは今思えば達見であったと改めて感じます。

この電源開発完成後は、夏などの洪水期を除いて、川は砂漠となって一滴の水もない処と、たとえあっても広い河原に細い帯程な流れとなって、その昔、「越すに越されぬ大井川」と歌われた面影は長い間懐ぶ事は出来ません。でしたし、更に「ダム」には期待された洪水対策も、さしたる効果もなく、台風の度に浸水被害が生じていました。

昭和末期から平成初期にかけての水利権更新を期に、沿岸三ヶ町の町民を挙げての「水かえせ」運動が、ようやく実を結び、細々ながらも渇水期においても河としての流れを再び見る事が出来ました。

も治水目的の「長島ダム」が完成するでしようから、その効果を大いに期待しました。

あの例年五月に入れば、真黒に群れて川を上る若鮎の姿を再び見る事は出来ないものでしようか。これには、年間を通して適量な流れは勿論ですが、それぞれの家庭に於ても汚水の排水には充分留意して、川の浄化に寄与して行きたいものです。

いま中国では揚子江を三国誌で著名な白帝城のある三峡の險で締切り、二百万の人間を移転させ、高さ一八五メートル、長さ六キロのダムを建設中で、完成すれば出力一、八二〇万KWの発電所となり、水力発電としては世界一の規模で、実に佐久間発電所の五十倍となり、現代の万里の長城にたとえられています。しかし、二百万人も人がスムーズに移転に良く応じたものと思議に思え、我が国では想像も出来ない事です。よそごとながら調和の取れた開発とは、言えないようですが、後世の評価はどうなるでしようか？

ひるがえって今、大井川の沿岸の集落を見ても、若者や娘さんの姿が見られなくなり、子供の数も極端に減って老人の姿のみ目立つようになり、正に「山野荒れんとす」の寸前のように入念に思えます。

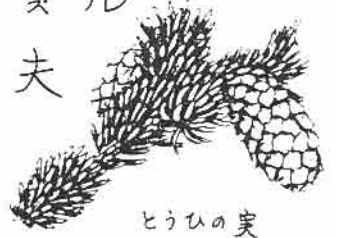
この里を多くの人々が喜んで住める環境にすべく、緑清流、手入れの届いた田畑、きれいな空気、整備された道路、加えて伝統ある芳香漂う銘茶の里として、更に研鑽を加え豊かな故郷を礎き、若い人の定住を促し、都会の人達のあこがれの的となるような桃源郷を二十一世紀には出現するよう願っています。

東京のかたすみから(二十)

テレビの始めから終りまで

絶対が崩れたコマーシャル

渡邊 實夫



とうひの実

昭和二十五年、私は中川根中学校の代用教員をしていた。生徒の週間目標を『何事もスピリットで絶対やりぬこう』と立案して、前川喜一校長から「世の中、絶対と言うことはいないから使わないように」と注意された。瀨沢出身の前川先生は私が小学生のころから存じ上げており、教員になる時にも文がお願いに行ったら、心良く引き受けて下さった大変お世話になった方である。

以来今日までこの言葉を使ったことがない。ところが去る六月十一日のNHKの昼のニュースを見て、生まれて初めてと云っていいほどの衝撃を受けて目の前が真っ暗になった。この世の中で私が信じていた唯一絶対のものが崩れ落ちたのである。五十年前に前川校長の言われた通りであった。それでも、私は自分の目を疑った。私の在職中はお互いに相手の台所ネタ(局内事情)を放送する時には、それなりの気を使ったものだ。

特に民間放送対NHKと言うことになる。過去にもいろいろなトラブルがあり、『目には目を、歯には歯を』と言うことがしばしばあった。そこでとにかく確認しようとして、チャンネルを変えて民放各社のテレビニュースを見たが、私が今し方NHKで見たニュースを報じている局は無かった。これはNHKのスクープかなと思つた。

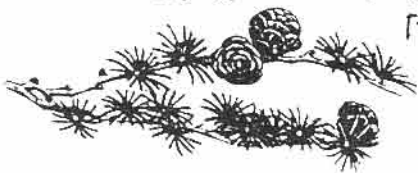
内容は、ある放送局が受注したスポットコマーシャル

(CM)の一部を、放送していないのにすべて放送したように通知書類を改ざんし、スポンサーから契約通りの料金を受け取り着服していたというものである。

新聞の夕刊に「福岡放送(日本テレビ系)CM不正間引き、調べのついた平成六年十月から八年八月までの一年十一か月間だけでもそれは延べ二九五社の一六六二本分、約一億円弱に達している」と報じられた。福岡放送といえは私が個人的には一番信用していたテレビ局であったから、二重に驚いたのである。

余談ながら約三十年前の福岡放送創立時の社長が凡林潔氏で、九州電力の社長も兼ね、国際交流、政治経済界でも活躍されておられた。そのお孫さんである世田谷区在住の凡林美絵子さんを、私の勤務先であるテレビ朝日に世話をした時に、人事部長の飯田至誠氏から彼女のお祖父さんは大変立派で有名な方であると聞かされた。そして彼女を紹介したことをテレビ朝日としても誇りに思つたようである。大変喜んでいただいた事を忘れない。田舎出の私は親の七光りと言うか、家柄の大切さを初めて知つた。私はニュースを見るのが樂しみの一つである。そこで報じられる不正や悪事もろもろ、どんな事件を見ても大して驚くわけではない。馬鹿なことをするもんだ、と思う程度である。しかし今日は違う。なんとも信じられない。今までの私の人生が否定されたようなことが起つたのである。

テレビ朝日に勤務中、私が決まらなかつたり、嘘をつけなかつたり、いや仮に嘘をついても、数分後には必ずばれてしまうことが一つだけあった。それはCMの放送事故である。



私の宮仕えは殆んどと言っていいほど放送の現場であった。とくにCMの放送にかけては、テレビ朝日内でも長い経験の持ち主の一人と言っても過言ではない。スポンサーが提供しているCMは、音声が一秒落ちても映像が数コマ(一秒が三コマ)欠けてもクレームがつくのである。一秒ウン万円、ウン十万円となれば当然のことであろう。万が一私がほんやりして事故をおこしたら、私の月給なんか一瞬の内におつとんでしまうのである。それだけにミスをした時は、体中の血が逆行し、そうになり、本当にうらかつたし、悔しい思いをした。そんな時は「ふるさと中川根」のことを思い出すと、なぐさめられ元気づいた事が度々あった。しかし、何度も続けは周りの人達や上司に顔を合わせるのも恥ずかしく、又、当然のことながら、私の勤務成績にも響くはずであった。出来ることなら、たまにはごまかし、隠したくもなるのも人情と言うものだろうが。

このコマースシャル事故を「鶴の目鷹の目」で監視していると、ろが最低六か所はあった。すなわち、スポンサー、代理店、局の営業担当者、CM担当者、モニター(査査担当)、マスター、ディレクターなどがそれぞれである。一般に、監視の目には抜け穴もあるが、CMには大金が掛かっているせいかなかなか細の目は抜けられない。全くと言っていいほど、いや、「絶対」にこれだけは嘘はつけないと、いつのまにか、私自身思い込んでしまっていたのである。私は「絶対」と言う二字は、ことCM放送に関しては言えると思っていた。とうとう定年後の今になって「絶対」が崩れたのである。

そして、私がか説いたのは、コマースシャルの放送に関して、は音や映像が悪い、色が付かないなど少しの不手際も許されないと、ということである。ところが今回の事件は、当然放

送すべきコマースシャルを全く放送しないで、ところが今回の事件は、当然放送すべきコマースシャルを全く放送しないで、放送料金はだけは何年間にも渡り、何千本分もの偽の放送済み通知請求書を作り、まるまる金を受け取っていたのであるから驚くほかない。

この不正事件は調べると出るは出るは、金沢の北陸放送(日本テレビ系)から九年の六年間に二〇二社分、四四六本分のCMをカットし約五千万円の金を騙しとり、まんまと着服していたと、八月二十二日の読売新聞は報じた。まさに立派な詐欺行為である。

CM間引き、正規代金

福岡放送 約額本流さず

背信行為に強い非難

会社ぐるみを否定



点検しにくい 15秒

間引き、5年度にも

前社長、役員辞任へ

社長、担当者、借入金

福岡放送、CM間引き、役員辞任へ



単の冬ごし(ロゼット)

私は初めて社会に出てSBS静岡放送に入った時、まだラジオ放送だけであったが、新入社員として初めて放送現場の訓練を受け、放送実務を行いその厳しさを知った。

放送進行表にそって一日の放送は進められる。秒単位で書き込まれた表にそってレコードをかけたリ、テープをセットしたり、アナウンスを入れたりしてCMを放送した。掛け違えたり、頭出しを間違えたり、尻ぎれしたり、スピードを間違えたり、スイッチを入れ忘れたりすれば、それらはすべて放送事故として厳しく追及され、事故防止対策を教育された。そこには一つのごまかしも、不正報告も許されなかった。

そしてテレビ朝日へ来てからはテレビCMとなり、映像が加わり音声と両方を間違はなく放送しなくてはならず、どちらにミスがあっても金は頂けない。その意味では神経を倍以上使った。事実、ラジオCMに比べてテレビCMは桁違いに高いし、ローカルの静岡放送に比べて、キー局の東京は十倍以上のお値段であった。そんな意味からも田舎出の私は驚き、大変な緊張をして毎日の仕事をなんとかこなしてきた。

この事件の直後、十月十四日の新聞は、民放最大のイベントである第四五回民間放送連盟（一九〇社加盟）全国大会で、会長が「民放の経営基盤をなすCM放送の不正行為は自殺行為そのもの。広告主や広告会社、視聴者の信頼を一刻も速く回復しなければならぬ」と述べたと報じた。当たり前のことである。



テレビ局の後輩たちよ、報道機関としての使命をもつ放送事業の公共性の高さを認識し、社会に対する背信行為は絶対やっばいはいけない。【おのれの手を綺麗

にして、根性を入れかえて、まともな仕事をして欲しい。たとえそれが上役の指示であっても……。我々はここまでは落ちなかったぞ。世間並みの「節操」は守って仕事をしてきたつもりだ。一九九七年十二月記



菊川町在住 山田幹雄さんより寄贈されました。11月16日(日)旧中川根中学校第13回卒業生の同級会がありました。今年3月末にはみんな53歳になる仲間です。同級生って本当にいいものです。ふだんご無沙汰していても、その瞬間、懐かしいあの時代にもどることが出来るから。そんな中、理科をお教えいただいた山田先生から素晴らしいプレゼントをいただきました。さっそくかざらせていただきました。

話しいとはのこと

“神楽の里はギラどころ”

その2

方言の研究をなさっておられる静岡大学の山口幸洋先生の「静岡県の方言」の中に「山岳地帯の謎のことはギラ」の章を見ますと

大井川上流地帯は、駿河と遠江にまたがって共通かつ独特の方言圏をなしており、全国的にも特筆すべき存在である。この地域は、おのおの次のように画然として区分がある。すなわち

・大井川上流 中川根町(田野口、徳山、藤川、志町河内、文沢)

本川根町全域

静岡市井川(口坂本を除く)

・笹間川上流 川根町(栗原、日掛、久野、二俣)

・薬科川上流 静岡市旧大川村全域、旧清沢村(小島、坂本、寺島、鍵穴、蛇塚、杉尾、峰山、中塚)である。

この地域のことには、シモ(下流、平野部)の人達から「ギラ」と呼ばれているふしぎな特徴があった。このように言語の上で画然と区別された地域は隣接する外周の村と格別な地理的障害で隔てられているわけでもない。(たとえば、藤川と水川、田野口と下泉、笹間の栗原と石上など)

なお、ギラにはいわゆる差別的な感情は昔からなかった。しかし、ギラとは何のことだったろう。シモの人達はギラの意味も知らずに、ただ「山の人達のことば」だと言った。しかし、そのことはどこがどうと説明できなくとも一言聞いてすぐ分かった。それは、特有のアクセント



1月14日、本川根町梅津神楽殿の舞

にあつたのである。周囲ではそれほどギラを知らない人はなかつたのに、当のギラ地域の人達は、昔から「ギラをつかう」と言われても、何のこともさうばり心当りがなかつたというのも奇妙である。

この事實は言語学的にみて実に驚くべきことで、その内容たる「特有のアクセント」というのは、会話全体が一本調子に聞こえるアクセント(文アクセント)で、学問的には「一型アクセント」と言われるものであった。同じ性質のものは日本本土に六カ所(北関東南奥羽地域、栃木茨城、福島、八丈島、福井市周辺、愛媛県大洲市周辺、九州中央部、宮崎、熊本、長崎、と大井川上流地方)があるが、その中でもギラと呼ばれているのは、この地域だけである。そして「地域人口が一人人を割っているのはこの地域だけである。何とか残すことが出来ないものだろうか」と山口先生はおっしゃいました。

無双連山を中心とする本城支城の位置がギラ地域と重なること、城主土岐氏(小長谷氏)の支配下と何らかのつながりがあるように、気がしてなりません。

北駿河に残る神楽(徳山、青部、笹間、田代、坂京、清沢、梅津、など)の舞様式は、共通点が多く、殿の舞は土岐山城守であったり、南朝の雄宗良親王であったり、神楽の里人はみんな「ギラをつかう」地域と重なりあっています。

ふるさと夜話

写経と酒の効用

原田耕作

「酒無くて何んの已れが桜かな」

酒好きの人は皆この句の様に何かにつけ酒無くでは淋しいのです。しかし酒をきらいな人は酒の匂いをする座敷へ出ることも苦痛だと言う人もあります。

太平洋戦争前迄は一般家庭の女性は酒を呑むものではない、酒を口にするとは、女として見苦しいことだと疑われていたため、酒を呑む女は色町の女か、男相手の飲食店のあはずれ女と決めつけられていました。

ところが戦後は女も男同様外で働き、外での交際も広くなり、社交の場も増えて酒は男の独占物ではなくなりました。

事実酒は労を癒し、苦を慰める効果絶大と、酒の愛飲家は誰でも思っているでしょう。しかし、若山牧水の様に一日一升の酒を呑んだという人も

「幾山河越えささりゆかは寂しさの

果てなん国ぞ今日も旅行く」

という人生の旅の歌を遺して逝きました。

牧水の人生の旅は日々一升の酒でも

癒すことのできない寂しいものだったのでしょうか？



さて今回の話題は「写経と酒の効用」

です。酒と写経、妙な組合せと思ってしまう。そこで日本美術全集・天平の美術からこの稿の資料を少し借りることに致します。



日本の仏教は、今からおおよそ二七〇年前、

奈良時代・神亀・天平年間、聖武天皇が仏教政治を行う様になってから急速に興隆しました。

聖武天皇は即位の初めから仏教を信ずること厚く、国家の鎮護を仏に祈るため、諸国に国分寺または国分尼寺を造立される一方、中央貴族、地方豪族の氏寺として造寺造仏活動を盛んに行われたと言います。

聖武天皇は、神亀二年（七二五）六百人の僧を宮中に請じて大般若経を誦んで国家の平安を祈らせ、この年の九月には三千人の若者を出家仏門に入れて、仏教の力に依って国土の平安を図ろうとしました。

神亀四年には僧六百人、尼僧三百人を宮中に請じて金剛般若経の転読を行い国土の災厄を除こうとしました。

神龜五年八月、皇太子の病氣平癒には、仏法僧の三法の威力に依る外なし、として観音菩薩像百七十七体、經典百七十七巻を敬造し、更に金光明經六百四十巻を諸国に配分して、病氣平癒並びに国家の平安を祈らせています。

こんなに多くの寺院を建て、何千人という多勢の僧を養成するには莫大な数の經典が必要でした。しかも早急に作る必要がありました。そこで考えた、とは写経でした。無学の世でしたから文字を知っている者

定期購読のお願い

中川根ふる里通信は有料発行です。

1部 750円

皆様の定期購読がふる里通信の発行を支えます。年間4回の発行(季刊誌)を予定しております。今回で購読の切れる方、初めてふる里通信をご覧になれる方には郵便振替用紙を同封致しますから引き続きご購読をお願いします。誠に恐縮ですが、50号より、1部200円とさせていただきます。よろしくお願い申し上げます。購読を止めたい時や、住所変更のおりも是非ご連絡下さい。

郵便払込通知票 00870-4-81556
加入者名 中川根ふる里通信係
ふる里通信に関する問い合わせ先・及・発行責任者 〒428-0313
静岡県榛原郡中川根町上長尾 859-6
小沢節子
TEL. 0547-56-0015



二期八年の任期を務められた鈴木久町長が二月にて勇退されることになりました。巻の嚆では選挙戦になりやうだとか、次回号には新しい町のリーダーをご紹介できると思います。二月十五日が投票日です。

昨年未の手掛けました四十七号ですが、発刊が大幅に遅れて年越という事になってしまいました。深くお詫び申し上げますと共に、今年中に五十号を迎えます。特別号にしようかと思案しておりますが、皆様の希望がありましたら、お知らせいただきたく思います。ことしもどうぞよろしく願います。



・根原山ウォークに参加した皆さん。山頂より静岡市方面を望む



今年もふる里ウォークを続けてみようと考えております。春か、秋の季節のよい時に計画しよう。又、〇〇地区で、催しものがありますよ」と言う時はふる里通信をご利用下さい。お待ちしております。

十一月二十三日、静岡地区ウォーク、根原山ハイキングは前日迄の雨も止み、好天に恵まれて、新しい一日を過ごさせていただきました。企画された西田さん、根原さん、ありがとうございました。根原山山頂は、静岡地区が一望されるすばらしいながめでした。一度皆さんも訪れてみて下さい。夜景もきっと見事だと思います。

